

巻頭特集

次の世代につなげる
～23区の推しごと～

第2回 中野区

アニメがつなぐ人・まち・未来

「地域（まち）とアニメ企業の相思相愛を目指して」

中野駅周辺では「百年に一度」とも言われる再開発が進み、アニメ関連企業の集積が加速しています。こうした動きを受け、中野区は令和7年5月に「アニメでつながる中野実行委員会」を設立し、産学官連携による多様なアニメ関連事業を展開しています。アニメを中野区の魅力ある地域資源として発信し、アニメ産業の地域定着や地域経済の活性化、シビックプライド醸成につなげる取組を紹介します。

「サブカルの聖地」だけでは足りない、多様性こそが中野区の魅力

住む、働く、学ぶ、遊ぶ…
多様な顔を持つまち

「中野区の特徴は？」と問えば、立場によって異なる回答が返ってくるでしょう。

来街者にとっては、「中野ブロードウェイ」に代表されるサブカルチャーのまち。区民にとっては、商店街が生活に根付き、人情味が息づくまち。通勤者や学生にとっては日々を過ごす、のちに思い出の舞台となるまちでもあります。

また、中野区は北部、南部に住宅街が広がり、中心部は繁華街として賑わうなど、地域ごとに異なる特色が形成されています。さらに、原始から近現

代まで、歴史が重層的に残る点も中野区の大きな特色です。

陸軍中野学校や、区の指定有形文化財の表門が残る旧豊多摩監獄（旧中野刑務所）は、日本の近代化において重要な役割を果たした公共施設として知られています。明治37年（1904年）創設の哲学堂公園は令和2年に国名勝に指定され、区民にとって身近な公園でありながら、中野の歴史と格式を伝える名所となっています。

このように人、地域、歴史の多様性が共存することこそ、中野区の大きな特色といえるでしょう。

アニメを地域資源として発信 するために―「アニメでつながる中野実行委員会」の設立

中野区はサブカルチャーのまちとして知られていますが、区民のシビックプライドの醸成や地域経済の活性化をどのように図るかが課題でした。多様性は中野区の強みでもある一方、ターゲットや発信内容を定めにくいという側面もありました。

その中で、アニメ関連企業の進出が大きな転機になりました。国内外で評価され、世代や国籍を越えて共有される文化であるアニメは、多様な人々をつなぐ「共通言語」になり得ると考えたのです。

令和3年改定の中野区基本構想では、「人と人とながら新たな活力が生み出されるまち」を将来像として掲げています。アニメはその実現に資するコンテンツであり、プロモーションに活用するためには区内の企業・産業・学校の力を結集する必要性がありました。

こうした背景から、地域の経済団体、観光・運輸関係企業、区内大学等で構成され、区内に本社のある、国内外で著名なアニメ関連企業5社がオブサーバーとして参加する「アニメでつながる中野実行委員会」を設立しました。令和7年5月の設立後、「中野のまちとひとの未来を照らす存在となること」を目指し、アニメ等コンテンツを活用した事業を進めています。

「アニメでつながる中野実行委員会」が展開するプロモーション

子どもから大人まで楽しめる
屋外シネマ「中野チルナイト
ピクニック」夕涼みアニメ
シアター」

実行委員会として最初に手掛けたのは、令和7年8月に3日間にわたって開催された「中野チルナイトピクニック」夕涼みアニメシアター」です。中野セントラルパークイーストの壁面に、実行委員会オプザバーのアニメ関連企業5社の作品を投影し、約1万人が夜の屋外アニメ観賞を楽しみました。

た。イベントの実施にあたっては、明治大学と東京工芸大学の学生、西武信用金庫の社員がボランティアとして参加。会場の案内・誘導や場内アナウンスなど、積極的に活動しました。

上映作品は、『長靴をはいた猫 80日間世界一周』『どうぶつ宝島』などの世代にも親しまれる作品の数々。また、夏休みの子どもたちの特別な体験として、昼間にはキャラクターグリーティングや子ども向けワークショップ、DJパフォーマンスを開催したほか、子どもの「居場所」をテ

マにしたゲストからのメッセージムービーを同時上映し、親子で一日楽しめるイベントとなりました。

「都心で多くの人が一緒にくつろぐ」「ナイトエコノミーの活性化」という新たな価値観を提案した点も特徴です。子育て先進区を目指す中野区の取組として、観光促進やシビックプライド醸成の観点からも、手応えを得ることができました。



『パンダコパンダ』 ©TMS



『葬送のフリーレン』 ©山田鐘人・アベツカサ／小学館／「葬送のフリーレン」製作委員会



『忘却バッテリー』
©みかわ絵子／集英社・KADOKAWA・MAPPA



『BanG Dream! ライブシーンコレクション』
©BanG Dream! Project



中野区にキャンパスがある明治大学国際日本学部の学生による
場内アナウンス



子ども向けワークショップ

新名所 「NAKANOミューラル・アニメロード」

中野駅北口（中野四季の森通りエリア）および南口（千光前通りエリア）に、区内アニメ関連企業の作品をストーリーアートとして展示する「NAKANO

ミューラル・アニメロード」を展開しています。

第一弾として、令和8年7月に創立70周年を迎えた東映アニメーション（株）の作品を展示しています。『ふたりはプリキュア』や『おしりたんてい』

などの人気シリーズをはじめ、『白蛇伝』などアニメ史に名を残す名作を、

東京電力パワーグリッド（株）が区内に保有する配電地上機器に描画、ラッピングを促し、中野区さまざまな魅力発見につなげることも目的としています。

作品は1年ごと（毎年秋頃）に協力企業を切り替えて展示する予定です。



地上機器ラッピングの設置場所



『おしりたんてい』©トロール・ポプラ社／おしりたんてい製作委員会



『ふたりはプリキュア』©東映アニメーション



『白蛇伝』／『狼少年ケン』©東映 ©東映アニメーション



『どうぶつ宝島』／『一休さん』©東映 ©東映アニメーション

★アニメの力で中野区の魅力を発信

子どもの「やりたい」を形にする「つながるアニメラボ」

実行委員会では令和8年度の新規事業として、「つながるアニメラボ」を企画しています。中高生年代をコアメンバーとして公募し、アニメコンテンツを活用して体験したいことを自ら考え、提案してもらい、アニメ関連企業と協働で形にしていける取組です。

令和8年度は10名の中高生年代がコアメンバーとして参加予定。若い世代の夢や挑戦を後押しし、アニメ産業側の担い手の育成にも寄与することが期待されています。

「中野大好きナカノさん」もアニメプロモーションに登場

中野区のシティプロモーションキャラクター「中野大好きナカノさん」は、SNSやイベントなど多方面で活躍しています。アニメキャラクター風にデザインしたイラストは幅広い世代に親しまれており、デザインマンホールにも描かれています。

今後も、アニメコンテンツを活用し

た各種イベントにも登場し、一緒に中野のまちを盛り上げていきます。

目指すのは地域（まち）とアニメ企業の相思相愛

「中野で育った子どもたちに、将来中野のアニメ会社と一緒に働いてほしい」。アニメ関連企業との対話の中で、切実な想いが伝えられました。一方、

中野で暮らし、働く人たちからは「中野から誰もが知っているアニメ作品が生まれていることを誇りに思うが、あまり実感がない」という声があります。アニメ産業がまちの誇りとして根付いてほしい。アニメを入口として中野区を訪れ、まちを回遊することで、商店街の雰囲気、飲食店の魅力、歴史・文化など「中野らしさ」を感じていた

だきたい。ひと、まち、未来。様々なつながりを築くことを最大のミッションに、今後もアニメコンテンツを活用したシティプロモーションに取り組んでいきます。



中野区のシティプロモーションのキャラクター「中野大好きナカノさん」。アニメ風にアレンジしたナカノさんが描かれたマンホールも話題に

●ナカノさんのプロフィール

「ナカノさん」は、無個性な人形の世界からやってきた球体関節人形です。中野区で出会う様々な日常を、「ナカノさん」の無垢な眼差しで見つめ、区民とともに地域の魅力を発信しています。



中野区北部にある哲学堂公園は、世界にも類を見ない精神修養のための「哲学のテーマパーク」。豊かな自然にも恵まれ、「中野区らしさ」を構成する名所のひとつ



大正期を代表する建築家・後藤慶二の現存する唯一の作品でもある旧豊多摩監獄表門。中野区の歴史・文化の特色を今に伝える貴重な遺構